

甲斐市教育委員会第11回定例会議事録

- 1 日 時 平成30年2月23日（金）午後1時30分
- 2 場 所 甲斐市役所 新館2階 教育委員会会議室
- 3 開 会 午後1時30分
- 4 出席者 【教育長】 西山豊教育長
【委 員】 新海宏子職務代理者 柳本博美委員
中込正久委員 長田明美委員
【説明員】 生山勝教育部長 樋口充教育総務課長
内藤和彦学校教育課長 土屋達巳生涯学習文化課長
梅原剛スポーツ振興課長 保坂和也図書館長
長田大地学事係員
- 5 傍聴人 なし
- 6 事務局 名取藤吾教育総務係長 河野晴美教育総務係員
- 7 前回議事録の承認 平成29年度 第10回定例会議事録 「承認」
- 8 教育長からの報告
- 9 議 題
第1号 平成29年度要保護・準要保護、児童生徒の認定について
- 10 その他
 - (1) 学校評価事業アンケート等結果について
 - (2) 平成29年度末及び平成30年度始め教育委員会関係の予定について
 - (3) 「甲斐市私立幼稚園運営費補助金交付要綱」の一部改正について
 - (4) 平成30年度研究指定校について
 - (5) 3月の行事予定について
- 11 閉 会 午後2時40分

○開 会

事務局 開会を宣する。

○あいさつ

教育長 みなさんこんにちは。冬季オリンピックも後半に入り、日本もメダルの数を増やし、盛り上がってきました。日本人が日本のチームの応援をするのは愛国心によるものでしょうか。フィギュアスケートやスピード

スケートを見ていると、日本の選手にドキドキして、声援を送っている自分の姿に、独特の雰囲気を感じました。

厄除け地藏さんから10日がすぎ、もうそろそろ春の兆しを感じられそうな年度末の時期を迎えました。今教育に対する自分の思いや課題を考えてみました。

まず、各学校とも生徒指導の報告の件数が少なくなりました。学校内では小さな怪我や喧嘩などいろいろあるだろうと思いますが、報告されるような件数はほとんどありませんでした。素晴らしいと思いました。

次に各学校の目標に対する努力を感じました。学校訪問などで授業を参観しても、学力向上への先生方のチーム学校としての取り組みや努力は、家庭学習や学習規律の面を見ても強く感じられました。これは自分の学校だけでなく、同じ中学校区の小学校同士の連携や、小学校と中学校の連携の成果も大きくかかわってきていると思います。他の学校から良いところは学ぶ、また、同じ目標に向かって共に研修を深めることはこれからの学校づくりに大切なことだと感じました。また、小学校と保育園の連携もうたごえ活動の中に芽生え、今後情報交換やいろいろな分野での交流ができればと思いました。

いじめ不登校の問題に対しては、各学校での取り組みの様子は報告からわかります。いじめの問題は日常起こりうるものとして捉えて、学年や学校全体で情報交換や取組のできる組織づくりも大切だと思います。不登校の児童・生徒も微増しています。図書室や保健室また特別に作った空き教室など各学校とも少なくする努力をしています。オアクルーム教室などと連携して、家庭、学校、スクールカウンセラー、関係機関とのきめ細かなケース会議なども必要だと思います。

特別支援教育については最も難しいと思います。インクルーシブの教育を保障するなら、国はもっと特別支援の予算を増やすべきだと思います。各学校の特別支援教育の実態を聞くと、担当教師や支援員の数を増やしていく要望は必然だと思います。小学校の外国語教育の取り組みでも同じようなことが言えます。

文科省も県も苦しい立場は分かりますが、市で補うのも限界があります。結局制度の整備と要求活動や、教師の資質向上の努力ということになるのでしょうか。

課題はまだまだ考えられます。貧困による教育の不平等、地域教育力

と家庭教育力の低下による諸問題。情報化社会、少子化社会から来る諸問題等。子供の目線に立った、力量があり、温かい先生が教育する教育環境の整備を目指して頑張っていく必要があると思いました。

○教育長報告

教育長

それでは、引き続きまして2月の諸報告をさせていただきます。1ページをご参照いただきたいと思います。

まず5日朝には、敷島南小で、「やはたいぬ子どもあいさつ運動 字をおぼえようキャンペーン」の一環として全校集会の一部時間をいただいて、子どもたちと交流を深めました。

午後4時から、総合教育会議が行われました。市長と教育委員会が教育を取り巻く課題について、意見交換を行い、共通認識を深めることができました。議題は、子ども生活アンケートの結果を説明する中で、子どもの貧困対策推進について話し合いました。また、学力向上、特別支援教育、不登校、いじめ問題など取り組むべき教育課題について意見交換を行い、連携を深めました。創甲斐教育推進に向け、頑張っていきたいと思いました。

8日午後には、甲斐市教育協議会及び市PTA連絡協議会から昨年10月に提出されました要望書に対する回答書をお渡しいたしました。回答の内容につきましては、先月の教育委員会定例会でご報告させていただいた内容で回答書をお渡しいたしましたが、学校現場や保護者の声にできるだけお応えしたいけれども、中々そうはいかないのも実情であることをご理解いただきながら、今後ともPTAと学校、教育委員会の連携を深めていけるよう、改めてお願いしたところであります。

午後4時から、市PTA連絡協議会の講演会が行われました。松野明美さんを講師としてお迎えし、長距離ランナーとしての思い出や頑張ったこと、障がいを持つ子の母親としての考え方や心の変化などを熱く語っていただきました。とても感動しました。

9日午前には、通学路安全推進会議が開催されました。平成24年4月に、京都・亀岡市で起きた集団登校中の事故がきっかけとなって、文科省・国交省・警察庁が合同で、通学路の緊急点検を全国に促し、対策の強化を図るようにと始まったものであります。本市でも平成26年に「通学路交通安全プログラム」を策定して、合同点検の実施、継続的な

安全対策に取り組んでおりますが、最近では高齢者による交通事故も増えていることもあり、関係機関のみなさんに出席を願って、本年度の点検結果に基づく安全対策について協議をいただきました。

午後3時には、6市の市長（代理者含む）、教育長が合同で、県庁に出向き、知事と県教育長に「適応指導教室廃止見直し要望書」を提出しました。知事と教育長が別々に話を聞いてくれました。要望書をよく理解し、対応していただけるようお願いしてきました。

10日には、第2回教員の資質向上に関する委員会が山梨大学で行われました。会議の前半は「平成29年度第2回教員の資質向上に関する委員会」で、後半は「平成29年度教育研究協議会」でした。公開研究や校内研、実習校などいろいろな面で大学にお世話になり、教員の資質向上に大いに役に立ったことに感謝しました。

11日には、竜王小体育館で、第13回外国人を囲む地域交流会が開催されました。室内グラウンドゴルフ・カローリング・フリスビーを使ったゲーム・輪投げなどの軽スポーツを楽しみました。屋内でのゲームの後は、ハーモニカの演奏発表や、ビンゴゲームで賞品をゲットしたり、楽しい1日を過ごしました。国際交流協会のみなさん、お疲れ様でした。

13日は竜王小学校で、16日には敷島小学校で、また本日、敷島北小学校で、2月5日の敷島南小学校と同じようにあいさつ運動を行いました。

14日午後4時から、子ども子育て会議が行われました。今回の議題は、甲斐市ネウボラ事業についてと甲斐市立双葉西保育園整備についてでした。ネウボラ事業についてたくさんの質問が出ました。

15日の午後から、平成30年度山梨県学校教育指導重点説明会が開かれました。来年度の指導重点策定の基本方針の説明に加えて、新しい時代に必要となる資質・能力の育成、豊かな心の育成、特別支援教育、生徒指導などについて説明されました。育成という言葉が多く使われた説明会だったように思いました。

16日10時から、敷島総合文化会館で、市立保育園7園の年長児によるうたごえ集会がありました。創甲斐教育・表現活動の取り組みとして昨年度から合同で始めた行事です。どの園もりっぱで、大きな声で歌い、指揮もすべて園児が行いました。最後に7園199名で歌った「レッツゴーいいことあるさ・世界がひとつになるまで」の大合唱に観客みんなが

感動しました。

午後2時から、楡形生涯学習センターで山梨県市町村教育委員会連合会総会、研修会が開かれました。研修会では東京学芸大の永田繁雄教授の「特別の教科 道徳」の全面実施とこれからの学校教育でした。道徳についての興味深い話が聞けました。教育委員のみなさまお疲れ様でした。

21日の午後2時から、中北教育事務所で中北地区教育委員会連合会理事会が開かれました。職務代理の新海教育委員が参加しました。

本日23日の午後、定例の教育委員会が開かれております。

今後の予定として、25日の日曜日には、第14回梅の里クロスカントリー大会が実施されます。教育委員のみなさまの参加者への激励などよろしくをお願いします。

26日から2日間、定例議会の一般質問が行われます。

以上2月の報告です。

教育長

議題の審議に入ります前に、議題第1号「平成29年度要保護・準要保護、児童生徒の認定について」は、個人情報に関する事項が含まれます。したがって、甲斐市教育委員会会議規則第15条の規定により、議題第1号を非公開とすることについてお諮りします。

非公開とすることにご異議はございませんか。

一同

異議なし。

教育長

ご異議がありませんので議題第1号は非公開といたします。

【ここから非公開】

○議題

第1号 平成29年度要保護・準要保護、児童生徒の認定について

教育長

1号議案は、これで終了いたします。

非公開とした議題第1号「平成29年度要保護・準要保護、児童生徒の認定について」の審議が終わりましたので、これより公開とします。

【ここから公開】

○その他

(1) 学校評価事業アンケート等結果について

事務局

(資料説明)

委員

子どもの回答では、全体的には小学校の方がいい回答が多いですが、中学校も伸びてきています。小学校は、1日、同じ先生で、その先生のもとで子どもたちはどの教科も一生懸命勉強しますが、中学校は教科ごとに先生が変わるので担任でも教科によっては週2時間ということもあります。中学校の先生も意識して目を配っていてありがたいと感じます。

教育長

学力向上についても、授業の進め方についても中学校の先生方が意識してきています。

他にご意見、ご質問はありますか。よろしいですか。

一同

異議なし。

(2) 平成29年度末及び平成30年度始め教育委員会関係の予定について

事務局

(資料説明)

教育長

ご意見、ご質問はありますか。よろしいですか。

一同

異議なし。

(3) 「甲斐市私立幼稚園運営費補助金交付要綱」の一部改正について

事務局

(資料説明)

教育長

ご意見、ご質問はありますか。よろしいですか。

一同

異議なし。

(4) 平成30年度研究指定校について

事務局

(資料説明)

委員

予定というのはどういうことですか。

事務局

学校の方は内定をいただきましたけど、今日、教育委員会にもご報告申し上げました。学校長からは内諾をいただいております。次の16校会でもこの学校が指定となるということで了解をいただきます。

今週、双葉の3校を訪問して指定について説明し、校長先生、教頭先生

の同意をいただいたところです。

今後3月2日の16校会でそれぞれの学校にお伝えし、当該校の先生方にも学期末には来年度はこういう指定がくるということは学校長から話をしていただきますけど、正式には4月ということになります。

それから、「対話的な深い学び」ということで3か年の研究指定校の県の募集に対して、敷島北小学校が、校内研究とタイアップして授業改善をするにはいいテーマであるということで、今、応募をしているところであります。

事務局 採択されるかどうかはわかりませんが、応募をしています。採択されれば委託金が出るということです。

委員 新学習指導要領の対応への研究は小中とも各校に任せているのですか。

事務局 竜王小学校の研究も新学習指導要領に対応したものなのですが、いずれ「確かな学力の育成推進事業」にしても敷島地区の小中連携についても新学習指導要領を見据えたなかでの研究となります。

具体的に各校は、それぞれ実態に合わせて、特に英語教育などは竜王小学校での研究成果を教務主任会、教頭会そして研究主任会を開きましてスムーズに新学習指導要領に移行できるよう、移行期間がありますけど対応していきたいと考えています。

委員 そのようにしないと、特に竜王小学校の公開研究会をみましたが、他の学校も参考にしながらその学校のものを作っていくことになると思います。急に言われても出来ないし、公開をというわけではないけど成果をお互いに公表しないと、学校ごとにバラバラではもったいないし、効率的ではないので、ある程度先に進んでいるところを参考にさせていただければいいかなと思います。違う研究内容も入ってくるし、それも新しい指導要領に絡めていると思いますが交流を是非お願いします。

事務局 関連しまして、特に保護者に関心があるのは外国語教育をどのようにしていくのかということかと思えます。

先日も竜王小学校の公開を受けて、各校の研究主任を集め、竜王小学校では再度、研究の成果とこういう方向がいいということその場で発表していただきながら、自分の学校では具体的にどうしたらいいのかという取り組みを始めています。

甲斐市ではこの2年間は移行期間ということで、70時間の完全実施ではなく移行期間の中で先生たちの資質向上を図ったりモジュール型と言

って2コマ増やさずに1コマ増やして1週間のマスは変わらずに1日15分くらいの英語の時間を週3日で45分になりますので、それをずっと続けるのではなく期間をおきながら進めていきます。市内一斉で、同じ対応ができるようにということで取り組んでいきます。これについては、校長会からも、保護者にこういう取り組みをしていますということを伝えるために、指導要領の主旨とか時間数なども含めて啓発の資料を欲しいということなので、今作成しているところです。

委員

モジュールでは読書、体育、保健指導などで使っていましたが、そういう時間は減ってしまうということですか。

事務局

実際に15分を3回使ってしまうと、その期間は読書の時間が多少減ったり、国語、算数の基礎計算の時間が減ったりしてしまうこともあるかもしれませんが、1年間ずっと英語をするわけではないので、影響は少ないかなと思います。学校によっては、今までしてきたことをそのままするのはではなく、委員会、集会も、他の集会とタイアップして短い時間でするとか一緒にするとかということも考えています。また、甲斐市はそこまで言っていないですが、午前中を5時間にして、午後を減らしてその中でしようということで、8時10分か15分に子どもたちは登校しているので、1校時を8時30分にはじめて午前中に5コマして、午後を1コマにして残った時間で教材研究をしたり集会をしたりという先進事例もあるようですので、これから研究が必要かと考えています。

教育長

21世紀型の甲斐市の指定で継続・新規というのは、1年ごとに増やして3年くらいしてもらおうという意図があるのでしょうか。

事務局

当初は1年でということだったのですが、ここまでして各学校にも広めていただいたので、引き続いてリードをしていただきながら、各学校はそれを基にしたものを使っていますので、もう1年継続ということになります。実際には11校の小学校が同じことをしていかなければならないので、内容的にはどこの小学校もするということになります。

教育長

4月からしっかり始めるのと15分で進めていくとでは、先生たちのストレスも違うでしょうね。

事務局

やはり、英語の得意な先生ばかりではないので、そういう先生方の負担を軽減するため、市ではデジタル教材の購入を予定しています。15分という短い時間で発音ができたり活動ができたりとそれを使えば比較的負担なくできる教材会社のものの利用を考えています。

A L Tを増員しているような地域もあるのですが、費用的にも負担になるということがあります。またA L Tを増員するとなるとどうしても今までの週5時間をどこか6時間にしていかななくてはA L Tの活用ができませんので、そうすると子どもたちの負担もあるということで、モジュールの先進地の事例を採用したということです。

委員 多忙化の問題もあるから、教員に負担をかけるのはよくないと思います。モジュールとか教材をうまく使うというのも一つの手だてです。新しい指導要領では今までの教え込むというところから討論するということになってきて、それで授業量が同じだとすると時間がかかりますよね。それが心配です。内容をクリアしなければならないし、子どもたちに考えさせて試行錯誤しながらみんなで話し合って作っていくということになると、進め方はどうなのだろうと心配になります。授業数を増やすということにもなります。6校時を増やしたり、夏休みを削ったり、いろいろなことを各地でしているけど、つめこみはやめてもらいたいと思います。

委員 1日の生活時間が決まっている学校で不足することになってくると、土曜日の活用とか長期休業をどう活用するのかということがあります。それをすることによって職員の負担が軽減できるということであればいいと思いますが、長期休業についても職員はほとんど学校に来て教材研究などをして、子どもがいないだけということになります。子どもの登校日数とか授業数とか最終的にはそういうところへ持っていかなくてはならなくなってしまうのかと思います。

委員 教育支援のソフトとか先ほど出たモジュールの英語の教材を用意とかが必要です。

委員 モジュールにすると、子どもにとって1日の授業が増えてくるとやはり大変ですよ。

委員 今までは算数とか国語のドリルをしていたのが無くなると、学力の問題も出てきます。また、図書指導もなくなると、図書館の利用も減ってきますよね。それを英語に置き換えてしまうと、今まで効果があっていたことができなくなり、そこしかする時がなかったという時間が減ってしまうと善し悪しがあります。

委員 先行実施でモジュールをしていくのはいいですけど、子どもの立場になってみると、やりすぎて英語はあまり好きではないという状態で中学

校に行くようになるといけないので、実施段階で評価をして子どもの反応をみながら少しずつ工夫したり変えたりしていく必要があるかと思えます。

事務局

モジュールも学力をつけていくというより、英語ふれあい教室のように楽しくするということがメインかもしれません。新しい教材も開発されましたけど、英語嫌いを作らないということはテーマですし、同じ中学校に進学してくる子どもがバラバラだと中学校としては困るということで、同じ中学に行く子どもは同じように進めてもらいたいと私たちも考えています。

事務局

外国語教育については、先行実施をするところが、南アルプス市とか韮崎市があります。甲斐市は移行期間を経てからということで2つのパターンがあります。保護者には先行実施するところは進んでいるという捉え方をする方もいます。甲斐市はなぜ移行期間にモジュールを使ってするかというところを保護者に丁寧に説明していかないといけないと思います。今、各自治体の新年度の予算について新聞に掲載されていますが、先行実施の自治体はかなり予算をとっています。甲斐市は出てこないで、英語に対しての取り組みが遅れていると捉えられかねないので、そこについては4月以降、保護者に丁寧に周知していかねばならないと考えています。先行実施をする自治体は取り組みが早いと思われてしまいます。子どもを小学校から英語の塾に通わせている保護者もいて、塾は進んでいて学校は遅れているという捉え方もあって難しいところがあります。甲斐市にもどうして先行実施をしないのかという問い合わせが保護者からあったようです。甲斐市での取り組みを保護者に伝えていかねばいけないと考えています。

委員

子どもたちの英語に関しても他の学習に関してもスタートが違うのですよね。家庭の環境で生まれた時から接している子どももいます。違う経験値の子どもたちに統一的なことをするのですが、保護者も待てないというところがあるんですよね。英語に接していない子どもの親は不安を感じて早く始めてくれればありがたいと思うだろうし、それに対しての捉え方が違う中で、どういう方針でしようとしているのか丁寧に説明をしていかないと理解が得られなくて甲斐市はどうなのかということになってしまいます。しっかりと周知して移行から実施していく道筋は大切だと思います。

委員 小学校でついた差が高校受験に影響があるのではないかと
ところで保護者は不安を感じているようですね。

教育長 これから考えていかなければならない問題ですね。
他にご意見、ご質問はありますか。よろしいですか。

一同 異議なし。

(5) 3月の行事予定について

事務局 (資料説明)

教育長 ご意見、ご質問はありますか。よろしいですか。

一同 異議なし。

事務局

- ・第14回甲斐梅の里クロスカントリー大会の実施について説明
- ・2020東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿について説明

○閉会

事務局 本日、本定例会に付議された議案の審議を全て終了したので本定例会
の閉会を宣する。

閉会時間 午後2時40分